

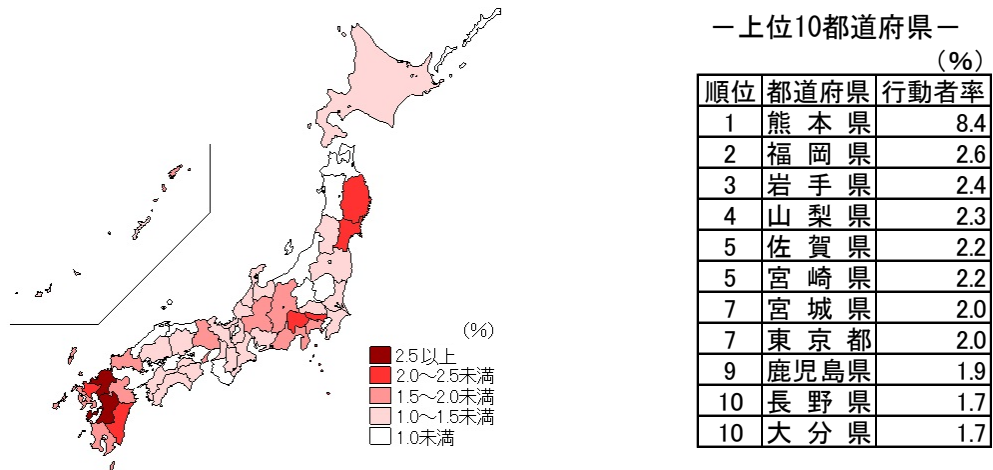
(参考2)

平成28年社会生活基本調査の結果から

都道府県別ボランティア活動（災害に関係した活動）をした人の割合—平成28年

過去1年間（平成27年10月20日～平成28年10月19日）における、「ボランティア活動」のうち「災害に関係した活動」をした人の割合をみると、熊本県が8.4%と最も高く、次いで福岡県が2.6%、岩手県が2.4%、山梨県が2.3%、佐賀県及び宮崎県が2.2%などとなっており、平成28年熊本地震の発生した九州地方で高くなっていることが分かります。

図1 「ボランティア活動」のうち「災害に関係した活動」の都道府県別行動者率^{※1}

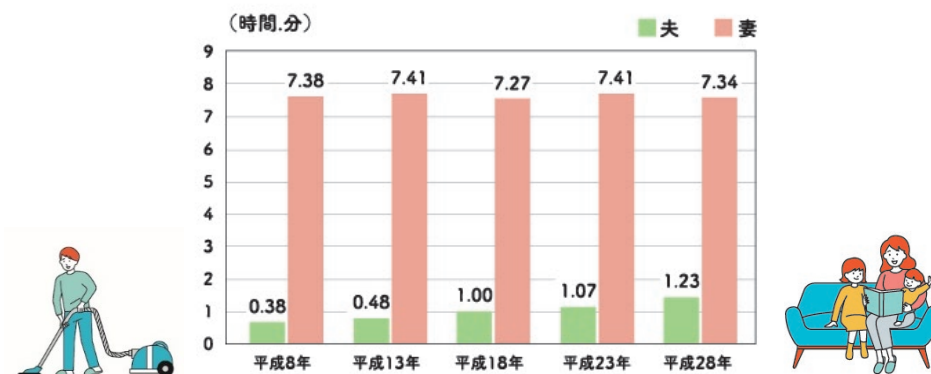


※1 10歳以上人口に占める過去1年間（平成27年10月20日～平成28年10月19日）に該当する種類の活動を行った人の割合（%）

6歳未満の子供を持つ夫・妻の家事関連時間^{※2}（夫婦と子供の世帯、週全体平均）—平成28年

6歳未満の子供がいる世帯の夫と妻の1日当たりの家事関連時間の過去20年間の推移をみると、夫は、平成8年から徐々に増加し、平成28年には1時間23分と、平成8年の約2倍に増加しています。一方、妻はほぼ横ばいで、平成28年でも7時間34分と、依然として夫より約6時間長くなっています。

図2 6歳未満の子供を持つ夫・妻の家事関連時間の推移（平成8年～28年）
—夫婦と子供の世帯、週全体平均



※2 「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の合計